



# 御文章に聞く(第34回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

信心獲得章(五帖第五通)  
 悪業、煩悩、無始以来つくりとつくる  
 く、業、煩悩、無始以来つくりとつくる  
 る、業、煩悩、無始以来つくりとつくる  
 不、退、の、位、に、住、す、と、な、り、  
 退、の、位、に、住、す、と、な、り、  
 より、の、位、に、住、す、と、な、り、  
 繁、を、う、と、い、え、る、は、こ、の、こ、ろ、  
 繁、を、う、と、い、え、る、は、こ、の、こ、ろ、  
 り、の、義、は、当、流、一、途、の、所、談、  
 り、の、義、は、当、流、一、途、の、所、談、  
 なるものなり、他流の一人に對し  
 なるものなり、他流の一人に對し  
 て、かくのごとく沙汰あるべか  
 て、かくのごとく沙汰あるべか  
 らざるところなり、よくよく、  
 らざるところなり、よくよく、  
 こころうべきものなり、  
 こころうべきものなり、  
 あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。先月は、私たちが無始より造り続けてきた悪業や煩悩を、すべて消滅してくださる本願力が阿弥陀さまには具わっているとお伝えしました。だからといって悪をしても良いということではなく、本願力に出遇うことよって悪を知らされ、為さぬ努力をするはず。このように私たち凡夫が本願力による真実なる智慧を賜ったことを、親鸞聖人は「正定聚」とも「不退転」ともあらわされました。「正定聚」とは、必ず成仏するに決定した大乘仏教の聖者をあらわす言葉です。また「不退転」とは、迷いや小乗仏教に退くことのない大菩薩の境地をあらわす用語です。無自覚な私に煩惱具足の自覚を与えて、煩惱を煩惱と知らせ、煩惱から離れさせて、さとりに向かう人生を歩ませてくださるものです。けれど、自覚することが難しいことも事実です。自覚の厳しさと、尊さを「煩惱を断ぜずして涅槃をうる」と讃えられたのです。

# 仏教語辞典



如來の救いの内容を手の形であらわしている。古代インドでは手の形で意思をあらわす習慣があつたことからきている。パッと見た感じ同じように見える仏さまも手の形を見れば、違いがわかるようになる。

## 印相

『気になる仏教語辞典』  
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

## 編集後記

今月も「じゅごう」をお届け致します。右のご案内でも書きました参拝記念スタンプですが、お寺のSNSでも紹介しておりました。すると、さっそく電話があり、一人の女性が参拝してくれました。お話を伺っていると、なんと四国の愛媛県から来られたとのこと。すごく行動力のあるお方でした。名前も分かりませんが、何度もあることではありませんが、SNSの発信力のすごさに驚かされました。(釋法道)

## ご案内

『気になる仏教語辞典』の著者でもある友達の麻田先生は「消しゴム仏はんこ」の作家でもあります。先日、私も真似をして阿弥陀さまを作成しました。初めてにしては上出来ではないでしょうか。そのはんこを利用して参拝記念のスタンプにしてみました。世間では御朱印と言つのかもかもしれませんが、法語とともに参拝の記念にいかがでしょうか。



## 7月

日時・七月十七日(日)  
 午前十時〜午後四時(午後のみの可能性あり)  
 行事・浄覚寺こども会 夏のつどい  
 場所・浄覚寺本堂 参加費・五〇〇円  
 (詳細は来月にお知らせします)

# 行事案内

